

街を行く

第83回 吹田 Saita

貨物列車に哀愁を込めて

吹田市は大阪府内の郊外住宅地。読者の皆さんには馴染みのない地名かもしれません。が、大阪出身の小生には「大きなビール工場」(アサヒビール)と「大学」(大阪大学や関西大学)で印象のある街です。郊外とはいえ大阪駅から東海道本線でほんの3駅という距離ですから都心へのアクセスは抜群です。

そうそう、忘れてならないのは遊園地「エキスポランド」(現エキスポシティ)で、1970年に開催された大阪万博の会場でした。万博は当時中学一年生の小生には極めて刺激的で通算十数回も通ったものです。「アメリカ館」に3時間半、「ソビエト館」に4時間(1日合計7時間!)の大行列に並んだことを思い出します。今ならどんな評判の店でも行列は遠慮してしまう小生、当時はなんと我慢強く純粋な少年だったものか…。

万博公園の思い出はさておき駅前再開発の様子を見て回りましょう。

先にも紹介しましたが大規模なビール工場が、まさにドーンと構えています。むかしと比べると施設規模は拡大しているようです。かつて敷地内にあった大操車場跡に設備を増設したのでしょうか。

巨大なビールタンクが何本も連なる光景はまさに圧巻ですが、視点を変えると駅前にこんなに大きな製造工場が建っているのは不思議なことで、普通は郊外の畠の中にあるハズです。これ



吹田駅前には「アサヒビール吹田工場」がまさに“ドーン”と構えている。

こそが流通の移り変わりの証と言えるかもしれません。

かつて長距離輸送は貨物列車の鉄道網が主役で、トラック輸送のための高速道路は今ほど整備されていませんでした。小生が子供の頃は国鉄(JR)のどの駅でも長い貨物列車を目にし、その編成数を数えたものです。流通革命は、全国にある駅隣接の操車場跡地を生み再開発を促し、街の風景を変えました。吹田の街は言うなれば「貨物城下町」だったわけです。では「貨物城下町」はどの様に変わるべきか。吹田のように住宅を整備しても他の地方都市で需要があるかは未知数です。

再開発では駅前の高層マンションが目立ちますが、新しい大学も誘致されていました。学生を集めには交通利便性が一番です。かつて郊外や地方

に移転していった大学も中心部に戻りつつありますが、移転跡地やその周辺にある寮やアパートの経営は厳しいでしょうね。大家さん達は頭を抱えているでしょう。少子高齢化に拍車がかかる先に思いを馳せながら、夜は大阪名物「お好み焼き」をビールとともに堪能しました。

南 一 弘



1982年大学卒業後、三井不動産販売に入社。ローンスター・ジャパン・アクイジションズを経て、2001年エートス・ジャパン・エルエルシーを設立。同代表に就任。2005年4月MID都市開発(旧松下興産)の代表取締役に就任。2006年ジャパン・アセット・アドバイザーズを設立。同代表取締役に就任。